

公益財団法人 檉の芽会 御中

## 伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日			令和 6年 2月 ○日	
②法人・団体名	認定 NPO 法人キッズドア				
② 所在地	〒104-0033 東京都中央区新川 2-16-10 プライムアーバン新川 2階				
③ 責任者氏名	渡辺由美子	(役職名等)	理事長		
④ 担当者氏名	中本菜穂子	(役職名等)	職員		

【奨学活動の概要】					
⑤ 助成交付決定番号	R05-021	⑥ 助成金額	200万円	⑦ 申請カテゴリ	FS
⑧ 奨学活動名	2023年高校生が考えるキャリアコネクト				
⑨ 主な実施場所	オンライン				

⑩活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑩及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等				
高校生等	30	15	450	各回 90分 x 10回の講座
大学生等				
学習支援員等				
その他				
合 計			450	

⑬その他の定量的な数値（任意）

## 令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

## 奨学活動名：2023 年高校生の考えるキャリアコネクト

法人・団体名：認定 NPO 法人キッズドア

作成者 氏名：中本 菜穂子

## 1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【課題】子どもたちが個人の関心や強みを活かしたキャリアをつくっていくためには、様々な職種や業界を知ることとともに、「こうなりたい」と思わせるロールモデルとの出会いを含めたキャリア教育の機会の充実が重要である。このとき、二点の課題があげられる。まず非富裕層の家庭の場合、身近に大学卒業が少ない場合が多く、大学進学を含む様々なキャリア形成を学ぶためのロールモデルと出会う機会が少ないことである。次に、地方在住の子どもたちの場合、都市部在住の子どもたちと比べて、生活圏内で見聞きする職種の種類も限られ、自身が想像できるキャリア象の広がりが少ないことである。

【目的】本事業は、キャリアトーク講師や学習支援員、参加者同士の対話・交流を通じて、高校生が一人でも多くのロールモデルに出会うこと、様々な仕事を知ること、日本全国の子どもたちが多種多様な進路選択を含めた、前向きで具体的な自分のキャリアを描けるようになることを目指す。

【場所】オンライン（Zoom）

【対象人数】日本全国の困窮家庭の高校生ならびにそれに準ずる年代の者 31 名

【時期】2023 年 9 月～12 月隔週火曜日 19:00-20:30 の 1 時間半／全 10 回

【内容】・様々な業界で働く大人（20～30 代メイン）のキャリアトーク ・キャリアについて学びを深めるワークショップ ・参加者同士の交流、意見交換

## 2. 実施した奨学活動の詳細

【周知方法】弊団体が運営している高校生向け学習会／ファミリーサポート事業登録者（4,000 世帯）／弊団体 HP／各種 SNS（Facebook、X、Instagram）／その他教育イベント広報サイト

【参加者数】34 名（高校 1 年生：17 名、高校 2 年生：6 名、高校 3 年生：10 名、既卒：1 名）

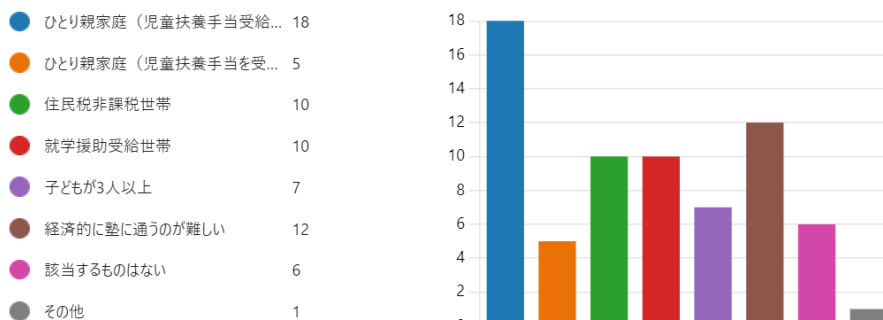
※なお、そのうち 3 名は部活等の理由で参加辞退

【参加者分布】北海道（1 名）、宮城県（2 名）、茨城県（1 名）、群馬県（1 名）、埼玉県（2 名）、千葉県（1 名）、東京都（6 名）、神奈川県（3 名）、石川県（1 名）、福井県（1 名）、岐阜県（1 名）、愛知県（2 名）、三重県（1 名）、京都府（2 名）、大阪府（4 名）、兵庫県（2 名）、岡山県（1 名）、広島県（1 名）、福岡県（1 名）

【家庭環境】

## 11. 家庭状況

詳細



## 【内容】

本プログラムは全 10 回で構成されている。以下が全体のスケジュールである。

日付	内容および講演タイトル	講師（所属など）
2023/9/5	オリエンテーション：自己紹介、自己理解	
2023/9/19	キャリアトーク：自分の未来を切り拓くーアントレプレナーシップの理論とその実践	高松宏弥氏（武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 准教授）
2023/10/3	キャリアトーク：Will（ありたい姿）からつくるキャリア	小安美和氏（株式会社 Will Lab）
2023/10/17	キャリアトーク：夢のない人のキャリアの紡ぎ方	内山田のぞみ氏（dof.）
2023/10/31	リフレクション：自己理解、適正理解ワークショップと振り返り	
2023/11/14	キャリアトーク：「行動」することが大事な理由 ～就職活動 60 社落ちからの逆転人生～	真野勉氏（SUPER STUDIO）
2023/11/28	プチキャリア座談会 * 講師体調不良により急遽変更	
2023/12/12	キャリアトーク：世界に貢献する仕事ー国連までの道のりとこれからー	飯干ノア氏（国際連合）
2023/12/19	キャリアトーク：高校生から始めるキャリア作り ～熱中できることをみつけて～	Kanoso 選手（東京ヴェルディ e-sports チーム）
2023/12/26	修了式	高松宏弥氏（武蔵野大学アントレプレナーシップ学部 准教授）

以上のスケジュールに従って本プログラムは進行した。



キャリアトーク回の進行は、チェックイン（5 分）⇒キャリアトーク・質疑応答（45 分）⇒コラボレーションタイム（20 分）⇒まとめ（5 分）で構成した。本プログラムは完全オンラインであるからこそ、参加者たちの積極的な参加を促し、学びを深めるための工夫をいくつか取り入れた。

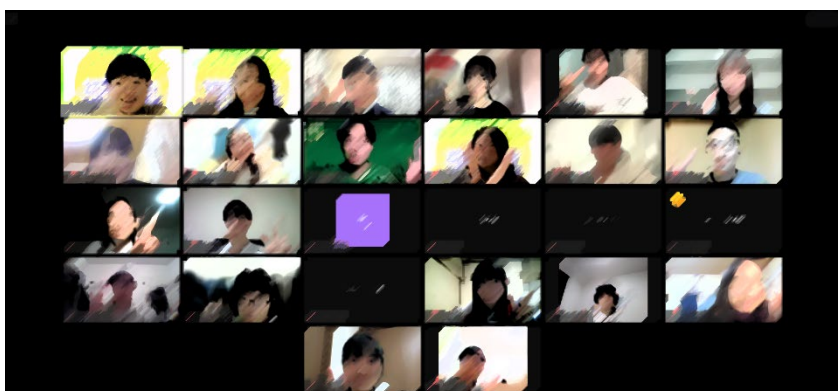
各回の冒頭で取り入れたチェックイン（5 分）は、「好きなお菓子」「行きたい国」などの簡単な質問について一言ずつ参加者が発言する時間を取るというアクティビティだが、これは参加者たちがリラックスした状態で参加し、質問など発言しやすくするための工夫である。さらに参加者同士また支援員との交流にもつながり、この時間を楽しみにしている参加者もとても多かった。

また、参加者の学びを深めるための工夫がコラボレーションタイム（20 分）である。これは意見交流の時間だが、お互いにコラボレーションして学びを深めていこう、という狙いをこめて、コラボレーションタイムと命名した。この時間中、参加者は学習支援員の見守り、問いかけなどを通じて、参加者同士の意見交流に取り組んだ。このとき、毎回の感想や気づきを言語

Group赤(にっしー)	本日の進行役:ゆうひ 本日のまとめ役:みあ
・6   あいか…自分のことを理解しようと思った。進路迷っている状態だったけど、迷うのもいいという事で楽になった。	
・12   りさ…(質問)外国語大学で、マスメディア興味持ったのは？ 当時は朝鮮語不人気で、差別意識をもたれるような時代だった。 実際に、在日朝鮮人差別が問題としてあった。差別に直面することになった。 差別生み出しているのはメディア。SNSが当時ないので、正しい情報でいい方に変えるメディアになりたい。	
(感想)Will=ありたい姿が印象に残った。山登り、川下り、9割が川下り。しっかりしてそうに見える大人でも川下りが多いと聞いて安心した。	
・23   ゆうひ…自分のことを理解しされていないので、自分ごとになった、外国にも興味をもてた。	
・33   みあ…川下り型で、将来のこと考えて、他の人が決まっているのでは？という不安があったけど、安心した。学ぶことがいっぱいあった。	
(ハイライト)自分のことを理解したという言葉があった。自分のことを理解できたということがハイライトなのでは？	

化し、記録していくためのツールとして Google Slide を運用し、参加者およびスタッフが共同編集者として書きこんで運用した。

以上の働きかけもあってか、各回の生徒の満足度は非常に高く、高い出席率を維持して運営することができた。



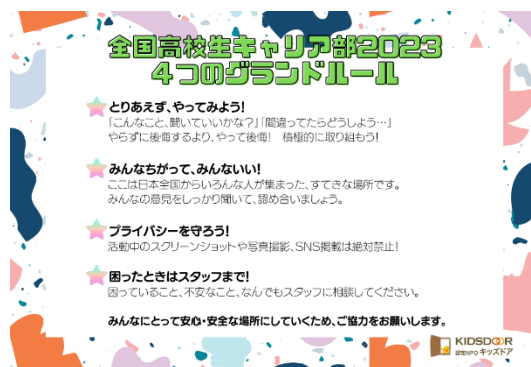
修了アンケートによると、本プロジェクト全体への満足度は 9.15 (回答者 26 名) (10 点満点) であった。また、本プログラムは脱落者を出すことなく (家庭の事情等による参加辞退 3 名を除く)、皆勤賞の生徒は 9 名、さらに精勤賞 (1 度欠席した人) は 6 名であった。

### 【学習支援員について】

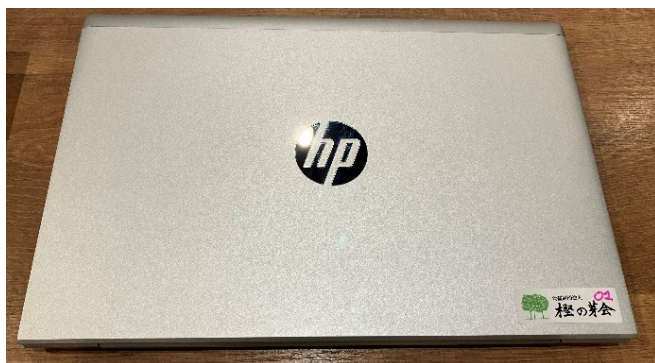
参加者と年齢の近い現役大学生 2 名と、進路・キャリア教育の経験を持つ社会人スタッフ 3 名の合計 5 名が学習支援員として参画した。

本事業は完全オンラインであるため、安全なプログラム運営のためのグランドルールを設定した。支援員ならび参加者間でこのルールを共有し、ルールに基づく場づくりと安全管理を努めた。

また、各回の前後で必ず振り返りを行い、参加者の状況や成長、また支援員自身の所感や困りごと等を共有した。運営などについて反省や課題がある場合はその都度話し合い、よりよい運営を目指した。



### 【購入した機材など】



左：HP ProBook 635 Aero G8/CT NotebookPC スタンダードモデル【S2】 合計 4 台

右：修了者に送付した賞状ならび賞品

### 【情報提供】

本プログラムの参加者には、キッズドアや他の団体が主催する様々なイベントや講演会、プログラムを紹介し、積極的に参加を促した。実際にイベントに参加した参加者からは、貴重な経験ができたという声が多く聞かれた。



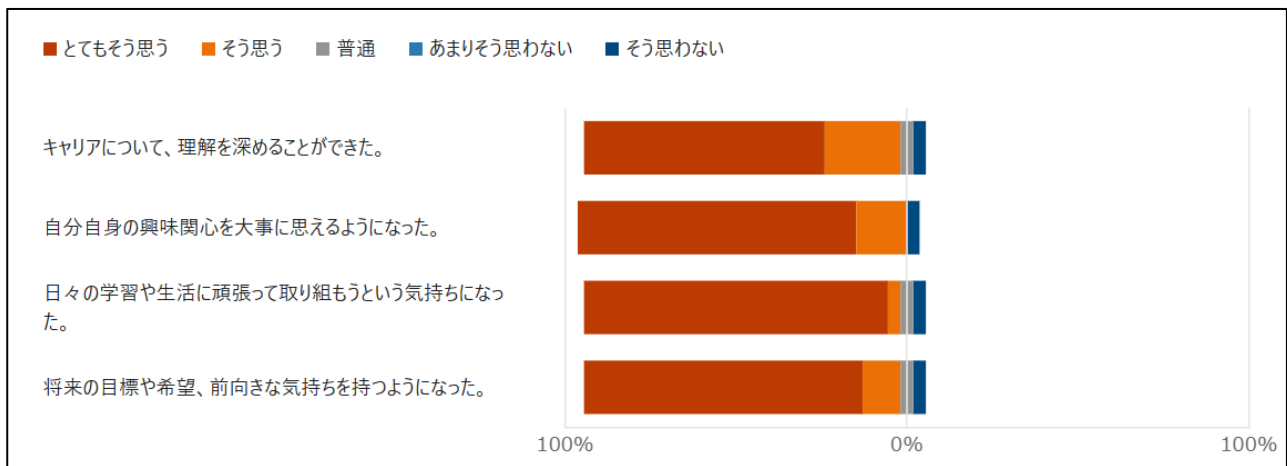
### 3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

#### 【本活動から得られたもの】

「全国高校生キャリア部 2023」は、参加者の高い出席率と満足度を以て、脱落者を出すことなくプログラムを完了することができた。本プログラムを通じて参加者に届けられたインパクトは何だったか、生徒の感想や修了アンケートの結果から取り上げたい。なお、修了アンケート（26名回答）の回答に付したパーセンテージは、対象の設問に「とてもそう思う」と回答した人の率を示す。

#### ① 未来への期待感の向上

本プロジェクト参加前に比べて、「将来の目標や希望、前向きな気持ちを持つようになった（81.5%）」  
「日々の学習や生活に頑張っ取り組もうという気持ちになった。（88.9%）」という回答を得られた。



また参加者の感想からも、プログラム参加前後で未来への期待感や、日々の生活への前向きな気持ちが向上したことが伺われる記述が確認できた。

#### 《参加者感想》

「講師の人の話を聞いてから身近なものがなんでもキラキラ見えて興味が湧くようになった！」

「参加する前は自分に疑問をもち将来が不安だったが、本講座での交流を通じて将来に対する不安も減って、自分の選択を信じて一直線に進んでいきたい」

「キャリアについて考える 3 ヶ月を過ごして自分の明確なキャリア構築につながったのでよかったです。」

「自分の可能性を感じられる素晴らしい経験になりました。お金が無いや、家庭のハンデで、どう一般的な家庭と戦っていくかずっと不安で将来が怖かったのですが、自分のやりたいこと、興味のあることを第 1 に考えてみてそこから将来に繋げるのだと思えるようになったのは間違いなくキャリア部のおかげです。本当に暖かい雰囲気楽しすぎました！」

「1 番記憶に残ったのは、国連で働かされている方のキャリアトークです。今まで何度も国際的な仕事に就いてみたいと思いつながらも、そのために英語を勉強しようという意欲が、今の実力も相まって起こらなかったが、とにかく行動されている内容の話聞いて、頑張ってみようと思えた。すごく前向きになれた。」

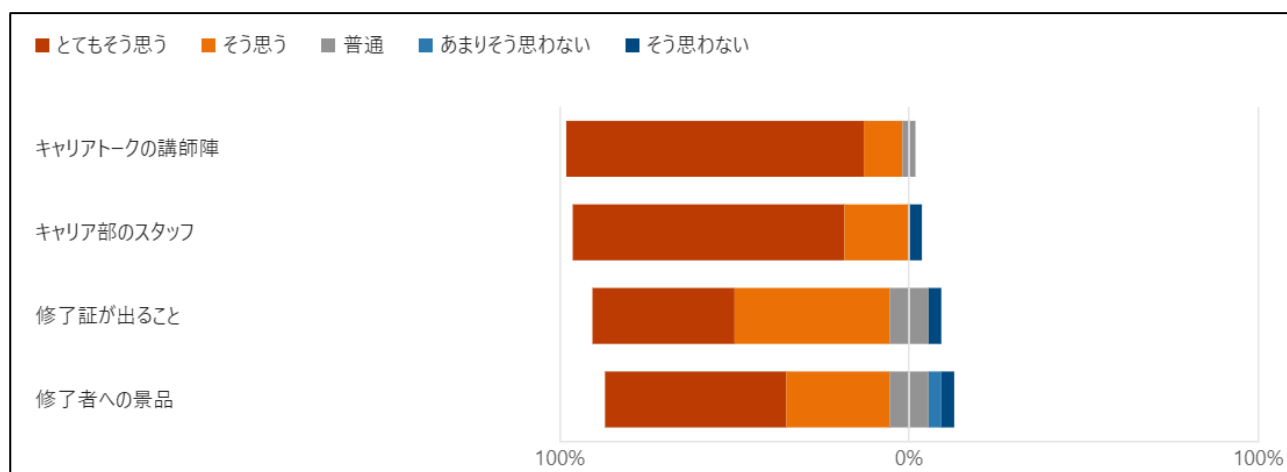
「キャリア部に参加する前はこれからの進路については考えていたけど、本当にそれはやりたいことなのかと自分に疑問を持っていて将来が不安だったけど、キャリア部に参加させてもらって普段聞けない

ようなことだったり、様々なキャリアをもった人の話を聞いて本当に良かったと思ってますし、不安も少し減ってこれから自分と素直向き合っ自分が興味をもったことに熱中して、自分らしく一直線に進んでいきたいと思います。」

以上のことから、本プログラムに参加することによって、参加者たちは将来に対して夢や希望、目標を持つことができるようになった。そして、自分らしいキャリアをつくっていくために、日々の生活や学習に前向きに取り組もうという態度を養うことが出来たと考える。

## ② ロールモデルとの出会い

本プログラムの魅力について、「キャリアトークの講師陣（85.2%）」および「キャリア部のスタッフ（77.8%）」という回答が得られた。



実際の生徒の感想からも、講師との出会いを通じてロールモデルを獲得したことや、スタッフ（学習支援員）との交流や対話が参加者に前向きなインパクトを残したことが分かった。

### 《参加者感想》

「飯干さんや kanoso 選手のような好きなことや熱中していること、やりたいことに真摯に向き合う大人がとても格好いいと思った」

「内山田のぞみさんのお話と講師の皆さんのアドバイスが思い出に残ってます。また、プチ座談会でスタッフさんのお話をたくさん聞いて自分の視野が広まりました。」

「この先何をしたいかという職業選択のアドバイスを貰えてよかった。夢は諦めなくてもいいということが分かった。あまり関わることの無い他県の人たちや有名な方とお話する事ができて良かった。」

「頑張っ取り組むことで熱中できることかを知ることができる、ということを経験したことが一番記憶に残っている印象的だったことだと思いました。また、ワークショップでにしーさんとキャリアについて話したことが、ささやかながら自分について気づくキッカケになりました。」

「学習支援員の方がみんな本当に優しく、喋ってる時に何を言っても笑顔で頷いてくれたり、意見を言うとたくさん褒めてくれたりと本当に嬉しかったです！私自身、親とか部活の先生とかとあまり良い関係を築けていない時もあり、大人と話すことが苦手だったのですが、こんなに優しい大人の方がいるんだ！とすごく感動しました。キャリアトークももちろんすごく学びになったのですが、このキャリア部に参加して、ファシリテーターの皆さんに会えたことが1番良かったことだと思っています！これからもこのキャリア部での学びを将来の夢に繋げて頑張っていきます！！約4ヶ月本当にありがとうございました」

いました！またどこかでお会いしたいです！」

以上のことから、それまでの生活では出会うことのなかった人たちとの出会いを通じて、目標にできるようなロールモデルを獲得したり、前向きな影響を受けたと考えた。参加者たちを本プログラムに最後まで引き付けていたのは、修了証・賞品などのインセンティブではなく、素晴らしいキャリアトークの講師の方々および伴走支援してくれるスタッフら、総じて人との出会いだったと考える。

### ③ その他

この他にも参加者からは「**今までの自分ではしなかつただろうなということをやろうになった**」「**司会役やハイライトなども積極的に挑戦したことが自信に繋がった**」といった、本プログラムを通じて**新しいことにチャレンジしようという気持ちが涵養された**ことが分かる声が多く聴かれた。全員の前で質問をすることができたことが「キャリア部の一番の思い出」だと上げる参加者もいた。本プログラムでは、参加者が積極的に、何事にもチャレンジすることを推奨する雰囲気づくりを心掛け、そのための仕掛けをプログラム中に設定したが、それらの仕組みが有効に働いた結果だと考える。

#### 【今後への発展性】

本プロジェクトを通じて、完全オンラインのキャリア教育の一つのプログラムのモデルを作ることが出来たと考えている。これからも本事業の成果およびキャリア教育のニーズを社会に周知していきたい。

## 5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

本プログラムは、経済的、地理的な制約のある高校生を対象に、キャリア選択の可能性を広げることを企図するものであった。自身のキャリア形成において、ロールモデルの存在は極めて重要であるが、出身家庭の経済状況や居住地域によって、人と人とのつながりや関係性が制限されてしまうことは、これまでも学界のみならず広く議論されてきたとおりである。

本プログラムの成果としてまず挙げられるのは、講師によるキャリアトークを通して、参加生徒は多様なキャリアについて理解を深めることができた点であろう。企業家、国際機関職員、プロeスポーツ選手、大学教員のように、職業として耳にしたことがあるという側面では身近であり、将来就きたい職業としても度々挙げられるにもかかわらず、物理的には身近な存在ではないキャリアを歩んできた講師と、限られた時間ではあるものの直接コミュニケーションを取り、具体的なキャリアパスを学ぶことができたことは、参加生徒にとって非常に価値があり意義深い経験であったといえる。

また、本プログラムを通して参加生徒が自己肯定感を向上させられた点や、自己理解を深めることにつながった点も成果として挙げられる。自己肯定感が高いほど、精神状態が安定していることから良好な人間関係を築くことができることや、失敗を恐れにくくなるということから、自己肯定感の高さはキャリア形成において重要であると考えられている。また、自己理解を深めることは、自身の適性を把握することだけでなく、自分が実現したい目標や、そのために必要となる知識や能力はどのようなものかを理解することにもつながる。

本プログラムが以上のような成果を挙げることができた要因としては、学習支援員として参加生徒に寄り添うという、プログラムにおいて最も重要な役割を担い、伴走していただいたスタッフの存在が大きいだろう。参加生徒が自由に自身の想いを抱き、発言できるよう、各回の序盤にチェックインとしてアイスブレイクの時間を設けたほか、プログラムのグランドルールとして、他者を尊重し、多様性を認めるといった教育的配慮がなされていたことは極めて重要であった。身近なスタッフの存在やこうした

工夫によって、参加生徒の心理的安全性が確保され、キャリアトーク講師に対しても気兼ねなく質問、交流をすることができていたように見受けられる。

当初の予定では、本プログラムの修了時には成果アウトプットとして参加生徒によるプレゼンテーション大会が設定されていたが、残念ながらスケジュール変更のために実施が叶わなかった。参加生徒が今後迎えることとなる、キャリアの分岐点である大学入試や就職活動の際に用いることができるポートフォリオの一つとして、プレゼンテーション資料を作成し、発表をする機会を設けることができれば、高校生のキャリア形成を支援する機会として本プログラムはより有効であっただろう。

キャリア形成において人間関係が重要であることは先にも述べたとおりであるが、参加生徒同士の深いつながりをつくる仕組みを設けることができなかつたのも改善点であろう。日本全国に居住する高校生が参加できるようオンラインでの講座開催となったが、偶発性や感情的なコミュニケーションを生み出されやすい場として、対面で交流する機会を設けるなどの工夫も今後は求められるだろう。

高松 宏弥（武蔵野大学アントレプレナーシップ学部准教授）